



# Sekison 通信

教育目標◇◇未来をひらく 石川の子◇◇



R6・3・22  
NO, 32 (最終号)  
文責: 校長酒井



## ☆☆☆204日間に感謝，感謝。今年度を振り返って。☆☆☆

いよいよ令和5年度の最終日，この便りが保護者さんの目に留まる頃には，予定通り94名の卒業生を無事送り出して，先生方と職員室で談笑しながら遅い昼食をとり終わり，校長室に一人籠って，令和6年度の学校経営の骨子を練っている頃かも知れません。

204日の令和5年度も何とか無事に終了することが出来ました。年末から猛威を振るったインフルエンザBと感染性胃腸炎にはほとんど参ってしまいましたが，492名の子ども達が何とか症状を悪化させることなく，無事最終日を迎えることが出来たことにほっと胸をなでおろしています。今月は，学校も閉鎖し対応を図るなどして，経験したことのない高い感染力に手を尽くしたのですが，収束には至りませんでした。しかし，保護者の皆様に協力いただいたおかげで，何とかここまでですんだものと思っています。ありがとうございました。

### 大変でしたね～，先生方は大丈夫ですか？

#### はやく収まるといいですね。

と，声をかけてくださった保護者さんは一人や二人ではありません。ありがたいことです。

さて，最終日ですので一年を振り返り，令和5年度の最終号としたいと思います。

5月にコロナ感染症が5類に移行したこともあり，ここ数年実施できなかった子ども間の交流や異学年（縦割り）活動，地域との触れ合いを「少しでも」と，力を入れてきた一年でした。本校が長年培ってきた「学び合い学習」の良さも取り戻すことが出来たらと青写真も抱いてのものでした。

児童会活動の充実も大切な柱の一つと，取り組んできました。委員会活動を中心とする本校の児童会ですが，子ども達が，「自主・自律・自治的」な力を十分に身につけているかと言えば，やや物足りなさを感じてきました。これは長く続いた感染症対策の弊害ともいえます。行儀は良いけれども指示待ちの子ども達，言われたことには取り組むけども，自分から行動に移せない子ども達。これらを全スタッフが課題として共有し，保護者の皆様にもご協力を乞うてきたものです。

初等教育の役目は，極論を言えば「子どもが自立するために必要な能力を育む」ことに尽きます。ですから，何れは親元を離れ自立する石小の子ども達が，その時迷子にならないための「礎」を育むこと，夢を叶えるための「学力・体力・心力」を育むことに力を注いだ一年でした。

保護者の皆様からの「学校に任せる」「学校を信じる」という数多くの声も心強かったですし，スタッフの多忙化を解消する取組への理解と協力も大変ありがたかったです。多くの方々のエールを力に，志は，まだまだ半ばですが，出来ることにはチャレンジした一年でした。子ども達にも変化が表れています。全てが数値や記録に残るものではありませんが，例えば，全校集会での校歌の歌声が大きくなり，なわとび記録会での目の色も明らかに違いました。全校生による6年生を送る会や課外活動部の送る会では，送る側も贈られる側も涙し，感謝の気持ちを素直に表しました。休み時間には外に飛び出し「ライオンズの森」を駆けあがり，伝説のピアノに群がる子が増えました。歩いて登校する子が一人また一人と増えてきました。手前味噌ですが，スタッフもよくついてきてくれたと感謝しています。若手からベテランまでの幅広い層をストロングポイントとし，時にはそれぞれの方法で，時には協力しながら子ども一人一人に寄り添ってきました。まだまだ力不足は否めませんが，子ども達と真剣に向き合ってきたことだけは自信を持って評価できます。生徒指導上の問題や学習面での課題も残りましたが，学校も保護者様も地域の皆様方向を一つにして取り組んできた204日に感謝します。

本日の卒業式の式辞は，一年を総括し卒業生へのエールとして伝えるつもりです。ノー原稿で…とっていますが，いつものように話が脱線するといけませんので，手元には開いておきます。不安なのは子ども達，一人一人の名前を間違わないかどうか…。校長となり「証書は自分で書く」「名前にかなや付箋は付けない」「式辞はノー原稿」を戒めとしています。小学校最後の呼名に敬称をつけるのは校長としてのこだわりです。

令和5年度最終日，きっといい日になるはずです。皆様，これまでありがとうございました。

※ 実は最終日の慌ただしさに，児童への配布を忘れました。卒業式は，もちろん…!? (笑)

## 贈る言葉（卒業式式辞）

校門の坂道のチューリップの芽が一斉に吹きだしました。秋に用務員の瀬谷さんと係りの子ども達が植えたあのチューリップです。ここ数日、寒さが続きましたが、今日は吹く風も優しく、ここから春は、ふるさと石川に駆け足で近づいてきます。

94名の6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、皆さんに卒業証書を手渡しました。マスクを外した皆さんの表情からは、小学校を卒業する喜びと次に進む覚悟を感じました。その立派な姿に立ち会うことができ、とても幸せを感じています。

さて、校長先生はまず初めに、皆さんに謝らなければなりませんね。それは、皆さんが中学年となった3年生の時からずっと、感染症の影響とはいえ、様々場面で我慢させるばかりだったことです。皆さんが最高学年としてスタートした春、感染症はようやく5類となったのですが、状況はそんなに変わりませんでした。生活のほとんどでマスクを着用。楽しいはずの給食での会話も控えさせ、グループ活動や集団活動も制限し、臨時休校することもありました。しかし、突然の変更を淡々と受け止め、何事もなかったかのように生活を送る皆さんの姿に、私たちは勇気をもらいました。

今こうして目を閉じると、様々な皆さんの姿が思い出されます。

- 企画から準備まで自分たちで進め、当日は下級生を楽しませることに徹した、フレンド活動での優しい姿。
- 小体連陸上大会、遠くから声をそろえて応援し、代表の仲間を鼓舞する悠然とした姿。
- 委員会や縦割り清掃、クラブ活動で指示を出す時の凛とした姿

どの場面のどんな表情を切り取ってもそこには、みなさんのひたむきな姿がありました。

振り返れば思い通りにならないこともたくさんありました。春の運動会は雨、夏の英国文化体験も雨、そして楽しみにしていた修学旅行も雨。しかし、それらも良い思い出にしまう力強さは、コロナ禍で培ったものかもしれません。アクシデントをものともしない力強さです。そして、皆さんのその姿は今年皆さんの後ろ姿をずっと見続けてきた後輩たちにしっかりと受け継がれ、必ず、来年10周年を迎え新しいスタートを切る石川小の礎となるはずで。これまでありがとう。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

あの未曾有の震災が起こった13年前、お母さんのお腹の中にいたお子さんが、こんなに大きくなりました。未来を予想できない中での出産や子育ては、どんなに不安だったことでしょうか。しかし、よくこの石川町にとどまり、子ども達を育ててくださいました。更にやっと中学年となった矢先の感染症。なぜ我が子ばかりがと出口が見えず、心配の絶えい日が続いたことと思います。しかし、子どもたちはやはり逞しいものです。そんな中でも立派に成長しました。それは、保護者の皆様自身が「精いっぱい生きる姿」を示して、子ども達を勇気づけてきたからに違いありません。ありがとうございました。

今ここに、石川小スタッフ一丸となって6年間お預かりしてきました、大切なお子様をお返しします。

94名の子ども達、いよいよ巣立ちの時です。

人生を24時間に例えると今はちょうど夜中の3時、もうしばらくすると暗闇に道を示すように朝日が昇ります。ここから先は、その朝日に向かって自分の足で、自分の道を進む時間です。しかし、道は真っ直ぐとは限らないし、平坦とも限りません。思いどおりに進めず回り道をし、途中で転び朝日を見失うこともあるかもしれません。隣を進む友達の道も気になるでしょう、しかし、大丈夫です。だって皆さんには、担任の先生方をはじめとした多くの先生方からの教え、地域の皆さんの見守り、何より、94名の仲間と一緒に取り組んできたたくさんの経験があります。失敗やアクシデントを乗り越えてきた経験がきっと皆さんの背中を押してくれるはずで。自信を持って次のステージに飛び立ってください。

石川小の先生方と後輩たちはずっと応援しています。

最後になりましたが、ご多用の中、このよき日、子どもたちの門出を共に祝っていただきました、町長様をはじめとすご来賓の皆様、会場の皆様に感謝申しあげまして、式辞といたします。

令和6年3月22日

福島県石川郡石川町立石川小学校長

酒井 修三